

## Compass を使った指導と定期テスト・ パフォーマンステスト

——新テストを見据えて

村越亮治



2020年度の大学入試では，センター試験に代わる大学入試共通テストの英語で，現行のマークシート方式の問題に加えて民間の4技能試験を受験生に課すことが，国立大学協会（国大協）から正式発表されました。それに先立ち，すでに国立大学だけでなく私立大学でも，外部試験のスコアを外国語の得点としたり，出願資格としたりする選抜方式を設定しているところが増えてきています。これまでも，「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標に基づく指導・評価が求められるなか，4技能を育てる授業やテスト（主としてパフォーマンステスト）のあり方がさまざまな場面で議論されてきました。大学入試の改革を受け，高校現場には，今後ますます4技能の効果的な育成と適切な評価が求められると思います。

そこでここでは，改訂版が出揃った *Compass English Communication I, II, III Revised* を使って，どのような4技能の指導とテスト設計（定期テストおよびパフォーマンステスト）ができるかということについて考えてみたいと思います。

### ◆「聞くこと」の指導とテスト

*Compass I～III* に共通したリスニングタスクとしては，各レッスンの終わりにある“Review A”があります。これはステートメントを聞いて，すでに読解した教科書英文の内容と合っているかどうかを判断するものですが，読む前に，*Compass II* のコラム“Follow the Compass ① Listening”のページで紹介されているキーワードの聞き取りのような簡単なリスニングタスクに取り組ませれば，すべてのパートでリスニングス

キルの訓練が無理なくできるでしょう。*Compass I, II* のテキスト欄外の“Sound”の語の発音や「つながる」「消える」「変わる」といった音変化を含む文を取りだして音読練習をすることも，発音への注意を促すのに効果的な指導です。*Compass III* には，“Further Practice B”として，教科書本文そのものではなくトピックに関連した内容のリスニングタスクが用意されています。これらの教科書教材を使って，日常的にスキルの訓練を積み上げていけば，初めて聞くテキストを使ったリスニングテストを定期テストに出題することができるでしょう。

### ◆「読むこと」の指導とテスト

*Compass I, II* では，読解活動として，各パートの段落の要点を確認する“Answer it!”と，1レッスンの内容理解をさまざまな形式のタスクで確認する“Review B（およびC）”が設定されています。*Compass III* では，Unit 1 の各レッスンで内容理解に必要なリーディングスキルやストラテジーを確認し，Unit 2 以降のタスク（Comprehension）でそれを使ってみるという流れになっています。タスクは英文の要点・概要，論理展開，出来事の順序などを読み取るもので，入試問題の形式を意識したものになっています（Unit 2 にはポストリーディングの“Review B”も設定されています）。基本的に，リーディングのテストは，既習テキストによる「暗記テスト」ではなく，初見のテキストを使ってスキルの習得を確認するものであるべきですが，それには，*Compass II* の“Follow the Compass ③ Reading”や *Compass*

III Unit 1 および “Column” で提示されているようなリーディングのサブスキル（何を読み取るべきか）やリーディングストラテジー（どう読むべきか）について早いうちから指導することが前提となります。教科書英文で練習し、定期テスト（初見テキスト）で腕試しをさせる、というプロセスで真のリーディングスキルを育てることができるのではないかと思います。

#### ◆「話すこと」の指導とテスト

「話すこと」に関わる活動として、*Compass I, II* には、各パートの文法項目や表現を口頭で使ってみる “Use it!” に加えて、レッスン末の “Enjoy Communication” があります。また *Compass II* の “Follow the Compass ① Speaking” で話す力向上のためのコツを扱っています。また、Teacher’s Manual には、レッスンごとに “Enjoy Communication” やトピックに関連したパフォーマンステストの例とその評価方法（ループリック）が準備されているので、前後の指導を考えながらそのスピーキングテストを適宜利用すれば、話す力の形成的評価ができるでしょう。*Compass III* では、Unit 2 各レッスン後の “Further Practice C” がスピーキング活動に充てられています。継続的にスピーキングスキルを伸ばすためには、帯活動やプレリーディング／ポストリーディングの活動として日常的に英語を話す場を設定し、言語リソースを蓄積・確認させ、英語の発話に慣れさせることが大切でしょう。当然のことながら、話す力は実際に話さしてみないと測ることができないので、指導・練習に基づいたパフォーマンステストを、適切なフィードバックを与えながら、複数回実施することが必要です。

#### ◆「書くこと」の指導とテスト

*Compass I, II* では “Enjoy Communication” に、*Compass III* では “Further Practice C” に、まとまった自由作文や要約文を書く活動が設定されています。「英語表現 I・II」を併修する

場合でも、コミュニケーション英語で数文～1パラグラフ程度のライティングをポストリーディング活動などで継続的に行うことで、書くことに対する抵抗感がなくなり、より長くまとまった英作文のための基礎力が身につくと思います。“Follow the Compass ④ Writing” (*Compass II*) でも、1パラグラフまでの段階的なライティングを扱っています。書く力もまた、実際に書かせてみないとその測定はできません。*Compass I, II* の Teacher’s Manual にあるライティングテスト（評価ループリックつき）を活用するなどして、定期テストの一部として、または独立したパフォーマンステストとして、継続的、形成的に書く力の評価をしていくことが、4技能試験の導入に備えますますます重要になってくるでしょう。

#### ◆「語彙・文法」のテスト

技能重視の指導が求められているなか、それを支える言語知識である語彙・文法の適切な指導と評価はやはり不可欠でしょう。*Compass English Communication* のシリーズでは、語彙・文法については一貫して、イラストや例文などにより使用場面を明示して扱っています。定期テストなどでも、会話仕立てにするなど、使われる状況を設定した出題をすることで、テストそのものが、その時限りの測定ツールとしての役割を超えて、習得に寄与するひとつの機会となるでしょう。

\* \* \*

よいテストの要素の1つとして「波及効果の高さ」が挙げられます。質のよいテストは、質のよい学習を促します。教科書および周辺教材のねらいや効果を十分に吟味し最大限に活用しながら、4技能をバランスよく伸ばす授業を展開し、診断力が高くさらなる学習につながるテストを実施することが、今あらためて求められていると思います。

（むらこし りょうじ・

神奈川県立国際言語文化アカデミア講師）